

令和元年度 地域でつながる家庭教育応援事業

親子の学び応援講座 (伊達地区PTA連絡協議会)

日時：令和元年11月9日(土) 13:30~15:45
場所：伊達ふるさと会館 MDD ホール

講演「子どもの創造的想像力を育む親の役割～AI に負けない子育てを考える～」

講師 IPU・環太平洋大学教授 お茶の水女子大学名誉教授 内田 伸子 氏

社会情勢の様々な変化により、人と人とのつながりや豊かな体験など、子どもたちの成長に必要な要素が十分に体得できなくなっている現状がある。また、家庭教育における課題として、子どもの個性をとらえ、より良く伸ばしていくアプローチのあり方、早期における外国語学習の是非、自己肯定感を育むためのポイント等があげられている。そこで内田氏の講話を通し、乳幼児から児童期の発達の過程や語彙習得のメカニズム、親の働きかけの型を学ぶことで親が子育てに自信をもち、心の通い合う豊かな家庭教育を目指すことができるように本テーマを設定し、当講座を実践した。

【講演の概要】

1 講演

(1) 想像力の発達

① 五官を使った体験の大切さ

- 想像力⇔生きる力 “人はパンのみにて生きるのではない。想像力によって生きる力が与えられる。” “～フランクフルト「夜と霧-ドイツ強制収容所の体験記録-」
- 第一次認知革命(生後10ヶ月)では、頭の中で「イメージの誕生～記憶～モノの同一性認識」が始まり、外からわかる変化として「社会的参照：鏡や母親の模倣等」が見られる。
- 第二次認知革命(5歳半頃～)では、プラン、メタ認知、可逆的操作、情報処理過程の精度が高まる。
- 第三次認知革命(9歳頃～30歳頃)では、意志力、判断力、モラル、情緒、自我同一性、人間としての豊かさが発達する。

② 子どもの個人差・性差の秘密

- 「気質」(対人対物システム)の性差
 - ア 人間関係に敏感な「物語型」には女兒が多い。
…ままごと、生活絵本、物語絵本を好む。
 - イ モノの動きや因果的成り立ちに敏感な「図鑑型」は男児が多い。
…積み木、ドミノ、科学絵本、図鑑を好む。
- 誕生時の大脳は、女兒は左脳(理性)>右脳(感性)で成熟するのにに対し男児は左脳⇔右脳で成熟する。
- 乳幼児～児童期の発達過程、発達原理
 - 第1 階段を上るように順序よく進む。階段の幅(発達の仕方)は違う。
 - 第2 スパイラル状に進む。
 - 第3 行動の上で「戻る」「停滞する」
→ ころころ・からだ・あたまの中で、見えない力が育っている。



- 経験は想像の豊かさを左右する。
 - ア 見えない未来を思い描く素材となるものは経験
 - イ 経験が豊かであるほど想像世界は豊か
 - ウ 想像≠経験
 - 断片的な経験の複合や加工作用により、新しいものを創造する。

想像は創造の泉

- 5歳半頃談話文法（起承転結）、ウソとホントの関係づけ（カットバック表現）が獲得される。
- 談話スタイル（出来事の説明）の違い

日本語母語話者…時系列「そして、それから、〇〇となる。」
 英語母語話者…結論先行「〇〇だった。なぜなら、〇〇だったから。」

- 5歳過ぎからのWHY（なぜ）質問に対して
 - 親、保育者は回答せず、「どうしてなんだろうね」と返す。
 - 子どもが対案を出してくる。
 - 大人は「そうなんだろうね」「よく考えたね」と共感的に受け止める。
 - ⇒ 論拠や根拠をあげて説明する力が育つ。



(2) 早期英語教育の是非を巡って

① 家庭の経済事情と学力格差の関係

- 読み・書き…所得と関係なし
- 語彙力…所得が高いと得点が高い。
 - 所得が高い家庭の子は習いごとをしている割合が高く、コミュニケーションの機会が多いためと考えられる。
- 保育形態による語彙力の差…自由保育>一斉保育
 - 自由遊びの時間が長い方が語彙力が高まりやすい。

② 楽しい会話で母語の土台をしっかり築く

- 英会話塾は英語学力に効果がない…お茶大付属中 10年間の追跡結果より
- 海外語学留学
 - 9~11歳は効果大（日本語、英語とも保持）
 - 2~4歳は効果なし（帰国後の日本語に難あり、英語はほとんど忘れる）
- 胎児期・乳幼児期は母語の土台をしっかり築く。
- 小学校期は母語の土台をしっかり耕し、グローバル意識を涵養する時期。
- 言葉は楽しい会話を通して習得する。生後6ヶ月から10ヶ月間DVDを視聴させると、言語理解を司る言語野（ウェルニッケ野）が萎縮する。→教え込みやドリル学習は百害あって一利なし



(3) ことばは子どもの未来を拓く

① 子どもの主体的な遊びを大切に

- しつけスタイル→共有型しつけと強制型しつけ
- 共有型しつけ…「親子のふれあいを大切に、子どもと楽しい時間を共有したい。」
- 強制型しつけ…「子どもをしつけるのは親の役目。悪いことをしたら罰を与えるのは当然。力のしつけも多用する。」

○ しつけスタイルにおける絵本共有場面と問題解決場面

	共有型しつけ	強制型しつけ
絵本共有場面	考える余地を与え、援助的サポートをする。	考える余地を与えず、支持的・トップダウンの介入をする。
	子どもに敏感で、子どもにあわせて柔軟に調整する。	過度に介入し、情緒的サポートが少ない。
	3つのH(ほめる・はげます・ひろげる)の言葉かけが多い。	3つのHの言葉かけはない。
問題解決場面	主体的に探索し、自律的に考えて行動する。 遊びに熱中し、楽しそうである。	主体的に探索せず、他律的に行動する。 親の顔色を見て緊張しながら指示を待つ。

- 難関校突破組は子ども時代によく遊び、共有型しつけを受けていた。
- 「遊び」を通して子どもは「楽習」する。
 - 大脳辺縁系の扁桃体が快(面白い・楽しい)と感じると、前頭連合野のワーキングメモリーに情報伝達物質が送られ大脳辺縁系の海馬を活性化し、情報を記憶貯蔵庫にどんどん蓄えることができる。
 - 「好きこそもの上手」自尊心・意欲や探究心につながる。
- 叱られながらやった勉強は身につかない。
 - 大脳辺縁系の扁桃体が緊張・不快を感じると同じく大脳辺縁系の海馬で他のことを考えられなくなる。
- 子どもの創造的想像力を育む共有型しつけ
 - ア 子どもに寄り添う⇔安全基地・信頼関係
 - イ その子自身の進歩を認める⇔他児と比べない。
 - 3H: ほめる・はげます・(視野を)ひろげる
 - ウ 「生き字引」のようにあますことなく定義や解説、回答を与えない。
 - エ 「裁判官」のように「判決」をくたさない
 - 禁止や命令ではなく「提案」を。
 - オ 子ども自身が考え、判断する余地を残すこと。
 - 自律的思考力そして創造的想像力を。
- AIに負けない子育てを。
 - 受験偏差値(暗記能力)で対応できる仕事はAIに取って代わられる。
- AIに太刀打ちできない力
 - ア クリエイティビティ⇔新たな価値の創造
 - イ ホスピタリティ⇔他者への共感と配慮
 - ウ マネージメント⇔状況対応の自己調整
- ② 共有型しつけのススメ
 - 共有型しつけは「盆栽」…待つ(松)と聴く(菊)
 - 「待ち」の姿勢
 - 子どもの心の声をしっかり「聴く」



※ 脳の発達のプロセスやしつけスタイルによる成長の違いについて、科学的データの裏付けと実際の事例を通してわかりやすく説明に参加者は皆引き込まれていた。「3H」や「盆栽」など印象に残る短いフレーズで子育てで大切にしたい考え方が提示されたので、それぞれの家庭や学校現場における実効性の高い講演であった。

2 質疑応答

Q バスケットのコーチをしている。子どもがコーチの顔色を見てプレーする。どうするべきか。

A 練習において、自分で判断する機会を設ける。そして自分で判断してプレーしたことをほめるとよい。



★ 参加者の声

- 3H（ほめる・はげます・ひろげる）の言葉の声かけは、つつい仕事や家事に追われ、後回しになったり、なかなか言えなかったりしていたので、これから子育てをしていく上で、3Hの言葉の声かけをして子育て頑張っていこうと思いました。
- 先生の話聞いて、逆に自分が成長して子どもにその姿を見せてあげたいと強く思いました。楽しい豊かな生活を形成したいと思います。
- 親と子の深い関わりがあってこそ子の学力や能力が伸び、開花するのだと、どんなに技術が進歩しようとも、愛情に勝るものはないのだと改めて強く感じました。
- 子どもが多いとつつい強制型になってしまいます。少し心にゆとりをもち、共有型になれるようこれから育てていきたいと思ひます。子ども自身が考え行動できる子になるには親の育む環境が必要だと知りました。今から間に合うかわかりませんが、実践してみたいと思ひます。
- もっと早く先生のお話を聴きたかったと思ひましたが、「子育てにもう遅いことはない。」という言葉に安心しました。今日から楽しく子育てしていこうと思ひます。来春から留学予定の娘（大学生）にもたくさん学んできてほしいと思ひました。不安なこともあります。ありがとうございました。
- 先生の上品なお話し方と、時々強い口調で話す先生の言葉にあつという間の90分でした。我が子は大学生、高校生となっていますが、自分の子育てを振り返るよい機会になりました。自分が共有型で子育てをしてきたかなあと考えてしまいました。
- 今回の講演を子どもの幼児の頃に聴くことができたらよかったです。子どもに対して強制型のところがあるので子どもの立場に寄り添い、創造できるように対処していきたい。実体験を振り返り、生活の質を上げていけたらいいなと思ひます。3Hを心がけます。